

# 附中だより



令和4年12月28日発行

文責；附属中 萩原喜成

## 感染症対策の出前授業

12月2日(金)に、山梨大学医学部感染症学講座教授の井上修先生を講師にお招きし、1年生を対象にした感染症学の出前授業を実施していただきました。

新型コロナウイルスの対策はもちろんですが、今年の冬は、インフルエンザとの同時流行が懸念される



状況もあります。感染症について、また、その対策方法について再確認する良い機会になりました。

若桐講座や職場体験(コロナ禍で中断中)なども含め、教育学部はもちろん、他の学部や附属施設の先生方が協力してくださるのは附属学校の大きなメリットですから、今後も協力をお願いしたいと思います。



## 大学卒業研究授業

大学4年生や教職大学院2年生は、卒業に向けての論文づくりが大詰めを迎えています。今までの研究内容について、実際に学校において検証授業を行い、その結果をまとめます。附属中学校でも、技術科や数学科の学生が、研究授業を行いました。



数学科の学生は、大学4年生3人が附属中学校で授業を行いました。その中の1人の学生は、2年生で授業を行いました。立方体の模型を用意し、その体積を3等分する合同な四角すいを考えました。次にその四角すいを変形させ、立方体の3分の1の直方体になることを確認させていました。実際に模型を使って確認することは立体をイメージできるようになる貴重な機会でもあります。時間がかかるので何回もできる内容ではないのですが、楽しそうに学ぶ生徒の様子が見られました。他にも原発の処理水の問題や使用電力量に関する問題など身近な問題を扱っていました。



## 生徒会選挙・立会演説会

12月1日(木)に選挙運動がスタートし、9日(金)に立会演説会と投開票を実施して、来年度の生徒会執行部が決まりました。



今年度の生徒会活動は、感染状況に合わせたウィズコロナの取組を、できることと我慢することを考えながらの実施でした。

来年度は、コロナ前の形に戻したり近づけたりする方法や感染拡大を予防する工夫を考えながらの取組になることが予想されま。そんな取組のリーダーを決める選挙でした。立候補した生徒は、自分の考えを理解してもらおうと、工夫した選挙運動や演説を行っていました。正副会長を中心に附属中学校の伝統を守り、発展させる活動を期待します。

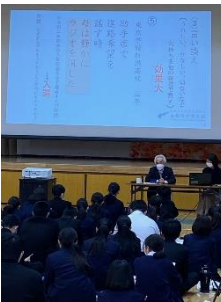


## 短歌づくりの出前授業

12月8日(木)に、文学館の三枝昂之館長をお迎えし、短歌を詠む上での工夫等について、2年生を対象に出前授業をしていただきました。



三枝館長は、甲府市生まれの歌人で、文芸評論家や宮中歌会始の選者としても活躍されています。また、2009年には、現代短歌大賞を、2011年には紫綬褒章を受賞されています。



授業は、中学生や高校生などが実際に詠んだ短歌をどう言い換えたり、どう修正したりするとより良い短歌になるかを考える内容などでした。

どこをどう修正するかなどを自分で考えて実際に挑戦してみると、かなり難しいのですが、三枝先生が例示して下さる見本は、「なるほど」とか「さすが」といった短歌に生まれ変わり、わずか31文字の日本語の奥深さを再認識する授業内容でした。